

横浜文化体育館 再整備事業

スポーツ施設の整備・運営等に関するセミナー

令和2年12月24日

横浜市 市民局スポーツ統括室

担当課長 赤羽孝史

横浜文化体育館整備地域の周辺地域



横浜都心臨海部の位置づけ

■ 横浜市と横浜都心臨海部



○ 基本情報

面積	435.43km ²
人口	約375万人
世帯数	約171万世帯

※ 1 : 面積は2019年 1 月 1 日時点の計測値

※ 2 : 人口及び世帯数は2019年10月 1 日時点の推計値



横浜都心臨海部の範囲



都心臨海部再生マスタープランの概要 ～各地区のまちづくり状況と機能配置イメージ～

■ 横浜駅周辺地区

- 日本有数のターミナル駅である横浜駅を中心とする地区であり、国際都市の玄関口にふさわしいまちづくりが進行中

■ みなとみらい21地区

- 横浜の自立性の強化等を目的に整備された新しい街
- 業務・商業機能、MICE拠点等が立地

■ 関内・関外地区

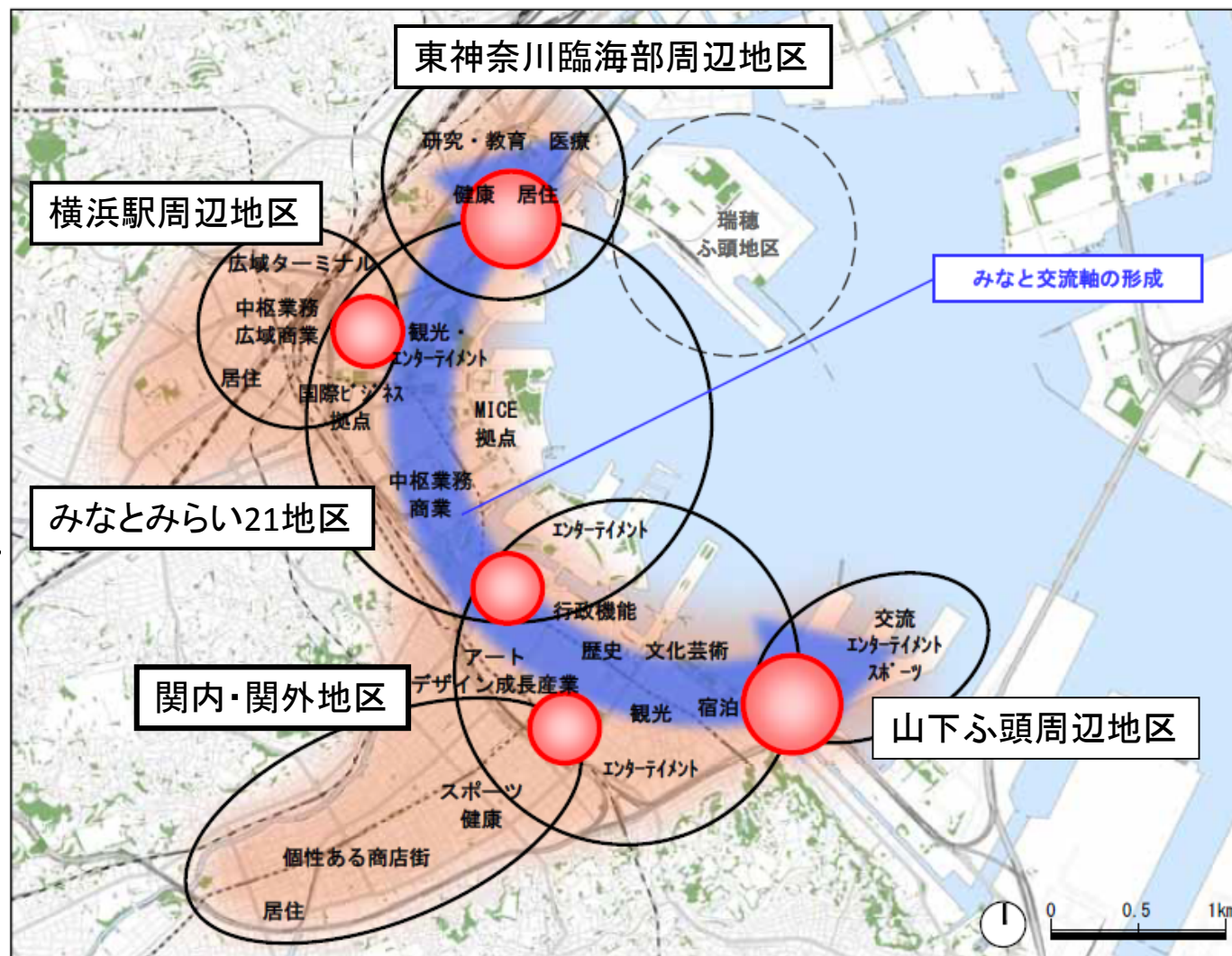
- 開港以来の歴史が残る地区
- 業務・商業機能が相対的に低下しており、課題解決に向けたまちづくりが進行中

■ 山下ふ頭周辺地区

- 都心臨海部における新たな賑わい拠点の形成に向けて、再開発を推進するため、基本計画の検討を進行中

■ 東神奈川臨海部周辺地区

- 神奈川台場の遺構や、横浜市中心卸売市場が立地
- 駅周辺の再開発や面整備の検討が進行中



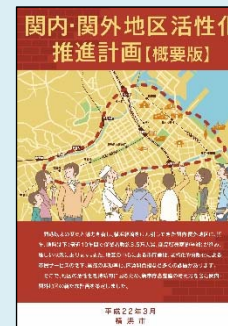
関内・関外地区のまちづくりの方針 ～関内・関外地区活性化ビジョン～

○策定の背景

■関内・関外地区活性化推進計画（2010（平成22）年3月策定）

推進計画の2本柱は、

- ① 「関内・関外地区の活性化」
- ② 「新市庁舎整備の考え方」

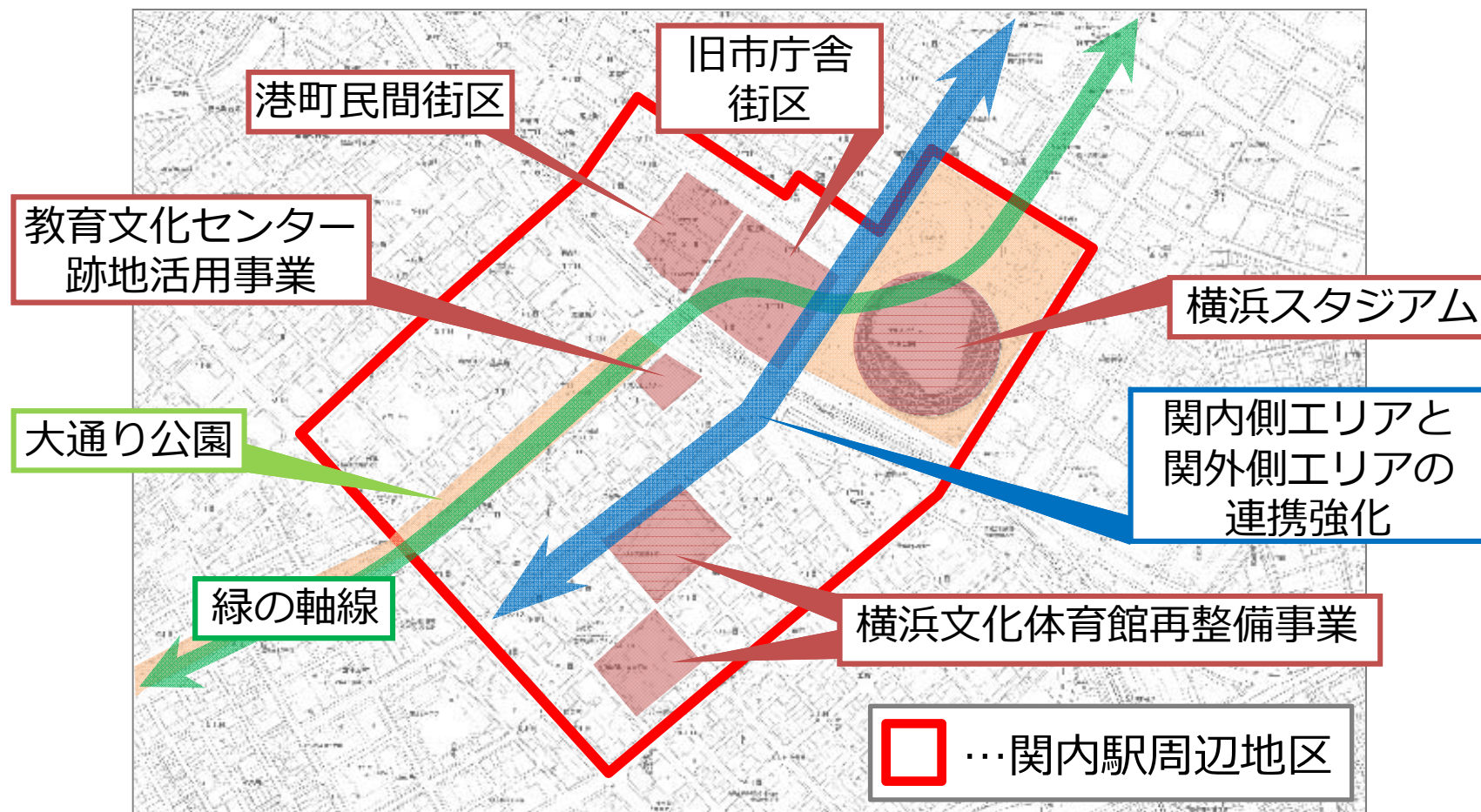


旧市庁舎街区では事業予定者が決定し、「市庁舎移転」が2020年に完了。

市庁舎移転後の関内・関外地区に取り組むにあたり
地域・事業者・行政等が共有する方向性として
「関内・関外地区活性化ビジョン」策定
(2020年3月策定)

①関内駅周辺地区の拠点整備

令和2年6月の市庁舎移転を契機とした、関内・関外地区の更なる活性化に向けて、関内駅周辺地区について、新たなまちづくりを進めています。



関内駅
周辺地区

①関内駅周辺地区の拠点整備<横浜文化体育館再整備事業>



①関内駅周辺地区の拠点整備<横浜スタジアム増築・改修>



○2020東京オリンピックの主会場になることも
見据えた改修

改修概要：収容人数を34,046人に増席
(改修前：29,000人)

回遊デッキの新設、バリアフリー化推進

建築面積：増築約5,950㎡（合計約23,800㎡）

延床面積：増築約12,000㎡（合計約46,000㎡）

竣工：令和2年2月



①関内駅周辺地区の拠点整備＜教育文化センター跡地活用事業＞



▲建物低層部

◀建物外観

提案内容・イメージパースは事業提案時のものであり、今後、変更する可能性があります。
また、イメージパースは応募書類から転載したものであり、著作権は応募者に帰属します。

②旧市庁舎街区



提案内容・イメージパースは事業提案時のものであり、今後、変更する可能性があります。
また、イメージパースは応募書類から転載したものであり、著作権は応募者に帰属します。

③関内駅前港町地区(旧市庁舎隣接街区)

関内駅前港町地区

旧市庁舎街区

横浜の中心
関内活性化の戦略拠点

- (1) ワールドクラスの機能導入
世界一流の業務・産学連携、最高級賃貸住宅、高質な賑わい
- (2) 横浜の各地域の魅力をつなぐ
エリアマネジメント
- (3) リスクに強く長期的な価値向上を具現化するALL 賃貸スキーム

提案内容・イメージパースは提案事業者の応募書類から転載したものであり、今後、関係者との協議により変更する可能性があります。イメージパース等の著作権は、応募者に帰属します。

また、旧市庁舎街区計画の建物イメージは、公表されている資料から本応募者が独自に書き起こしたものです。

④関内駅周辺地区のその他の取組

＜関内側エリアと関外側エリア
の連携強化＞



- みなと大通りのシンボルロード化や横浜文化体育館へのアクセス動線を強化することにより、**関内側エリアと関外側エリアの連携強化**を図る。
- 既存道路空間の再整備を行い、安全で快適な歩行者ネットワークの強化・拡充を図り、**地域の回遊性を高める**。



▲みなと大通りの現状



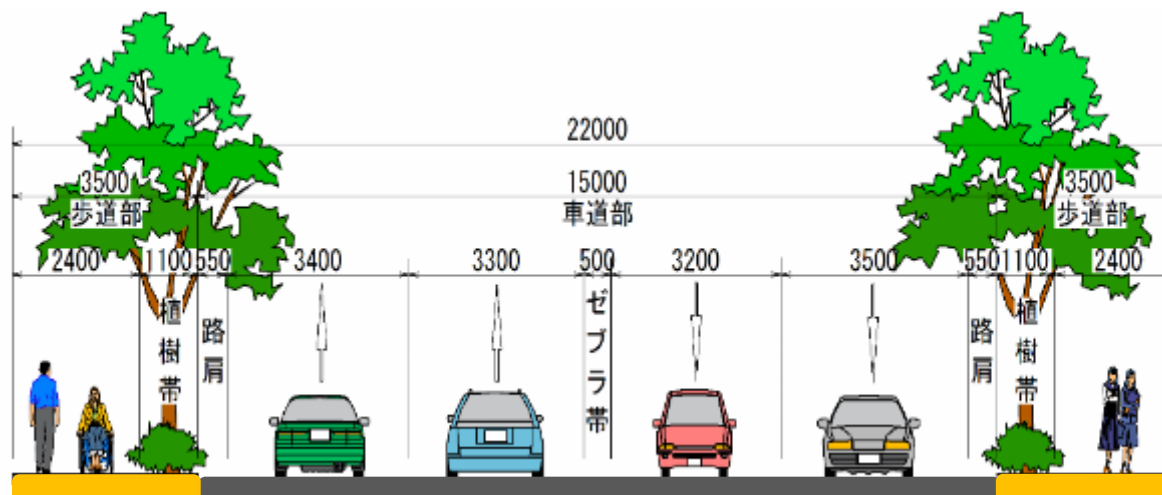
▲横浜文化体育館沿道の現状

④関内駅周辺地区のその他の取組 <関内側エリアと関外側エリア の連携強化>

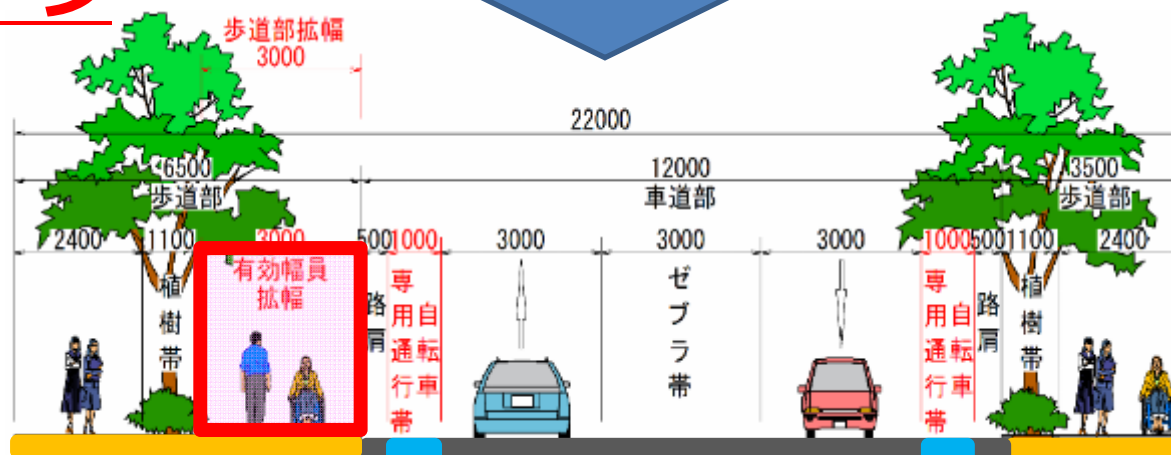
■みなと大通り（横浜税関前交差点～市庁舎前交差点）

車線を4車線から2車線（+ゼブラ帯）に減らし、歩道拡幅及び自転車通行帯の整備を検討

現況



整備イメージ



横浜開港記念会館
が立地する側

横浜地方裁判所
が立地する側

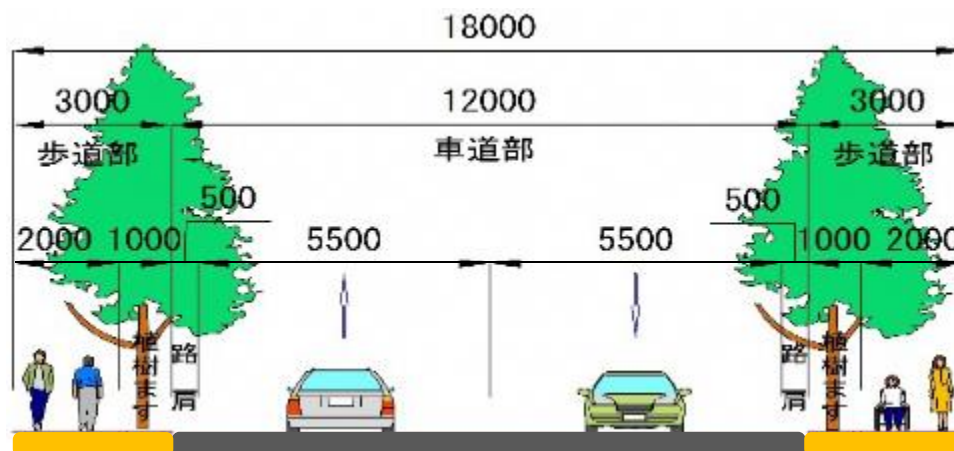
④関内駅周辺地区のその他の取組

<関内側エリアと関外側エリア
の連携強化>

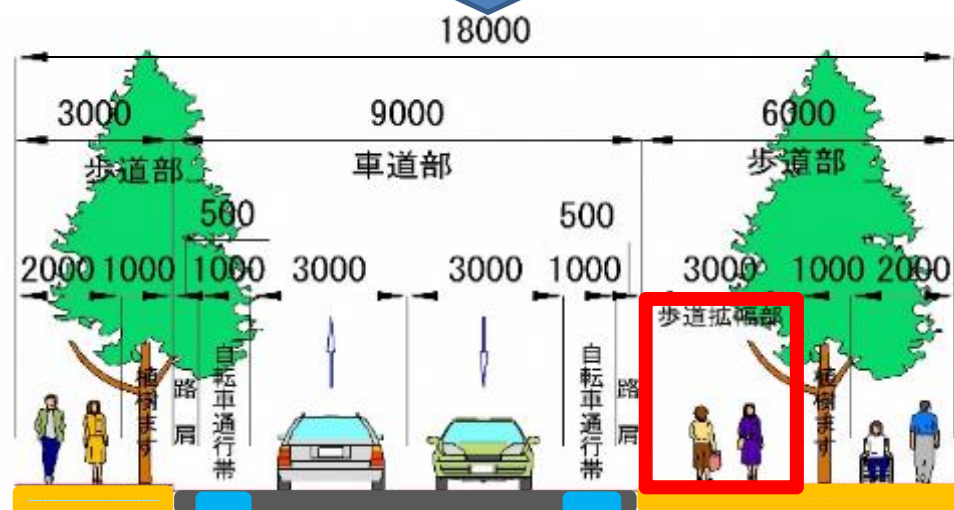
■横浜文化体育館へのアクセス動線（不老町交差点～長者町3丁目交差点）

車線幅を縮小し、歩道拡幅及び自転車通行帯の整備を検討

現況



整備イメージ

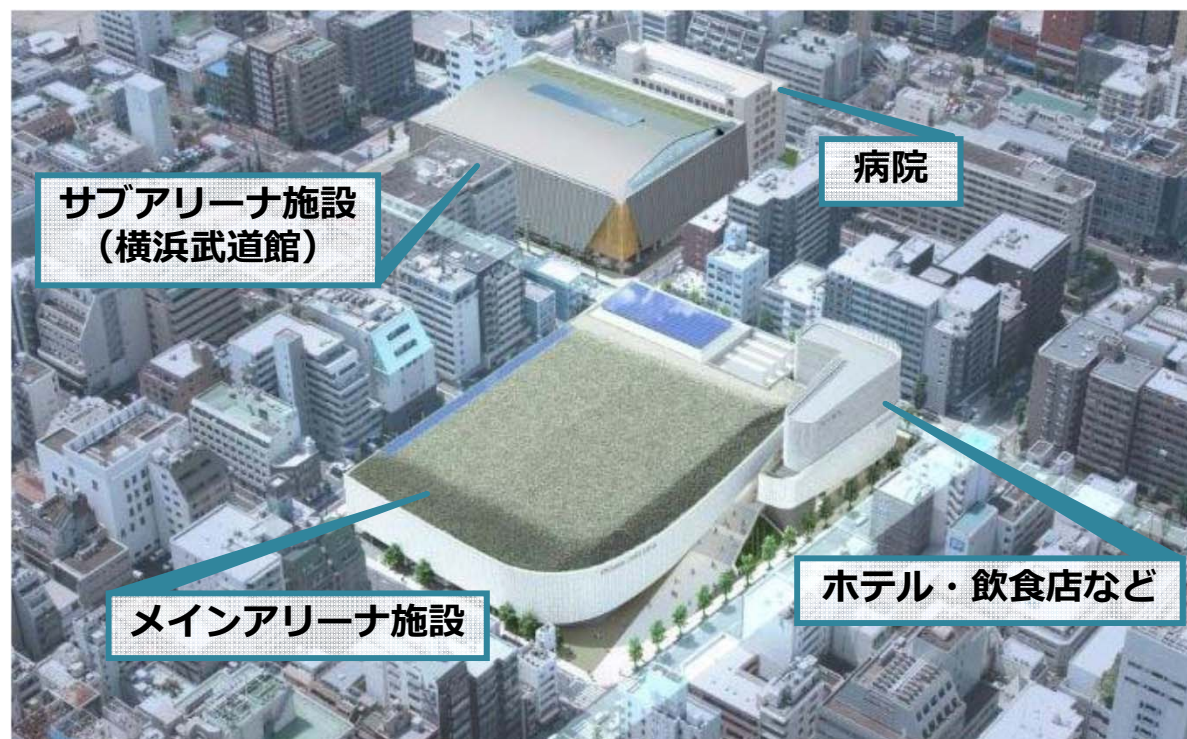


日之出川公園
が立地する側

横浜文化体育館
が立地する側

①関内駅周辺地区の拠点整備<横浜文化体育館再整備事業>

- 事業方式 P F I (B T O方式)
- 事業期間 平成29年12月 ~ 令和21年 3月まで
- 施設概要



	メインアリーナ	サブアリーナ (横浜武道館)
階数	地上 3 階	地上 4 階
構造形式	鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造	
延べ床面積	15,514㎡	14,514㎡

民間活力の活用を図るため、基本構想においてサウンディング調査により民間事業者から幅広く意見を募るとともに、民間からの意見をふまえ事業方式の比較検討を実施。

あらゆる事業方式を比較しベストミックスを検討

- サウンディング調査より得られた意見を踏まえ、テナント方式、リース方式、PFI方式、従来方式等あらゆる手法の比較検討を行いました。

の想定される整備手法の特徴とイメージ。

(想定される整備手法の特徴とイメージ)。

		テナント方式		リース方式	PFI方式		従来方式
		利用持買取	利用床借上		BTO	BOT	
特徴		・土地は市が所有したままで、一定期間、民間がその土地を賃借し、民間資金・ノウハウを活用し、建築物の建設・維持管理等を行う手段。 ・民間所有建築物の利用権を、市が長期間買取する。	・土地は市が所有したままで、一定期間、民間がその土地を賃借し、民間資金・ノウハウを活用し、建築物の建設・維持管理等を行う手段。 ・民間所有建築物に市がテナントとして入居する。	・土地は市が所有したままで、一定期間、民間がその土地を賃借し、民間資金・ノウハウを活用し、建築物の建設・維持管理等を行う手段。 ・市は民間とリース契約を締結し、施設を活用する。	・土地は市が所有したままで、民間資金・ノウハウを活用し、建築物の建設・維持管理等を行う手段。 ・一般的には、SPC(特定目的会社)を設立し、SPCが業務を遂行。 ・市はSPCの監理役となり、SPCが施設を建設し、施設完成直後に公共に所有権を移転、SPCが維持管理及び運営を行う方式。	・土地は市が所有したままで、民間資金・ノウハウを活用し、建築物の建設・維持管理等を行う手段。 ・SPCが施設を建設し、維持管理及び運営し、事業終了後に公共に施設所有権を移転する方式。	・市の所有土地のまま、市が独自資金のもと整備する手段。
権利	土地・建物	市・民間	市・民間	市・民間・市・民間	市・市 ※施設完成後にSPCから市へ権利移転	市・SPC ※事業終了後に市へ権利移転	市・市
運営		民間	民間	市(指定管理)・民間	SPC	SPC	市(指定管理)
イメージ							
市負担(支出)		・民間が施設を整備。 ・運営も民間で行い、市は利用権を買取。	・民間が施設を整備。 ・運営も民間で行い、市は利用床を一括して借上。	・民間が施設を整備。 ・市は一定期間リース料を支払。(市へ所有権移転も可能)。	・SPCが施設を整備した後、市へ権利を移転。 ・施設はSPCが運営。	・SPCが施設を整備・運営。	・市が施設を自力整備。
市収入		・利用料の取得費。	・賃料。 ・定借による権利金又は保証金、借地料。	・リース料。 ・定借による権利金又は保証金、借地料。	・公共サービス対価の支払。 ・なし。	・公共サービス対価の支払。 ・なし。	・建設費、運営費。 ・なし。
参考事例		・渋谷区役所、公会堂増設事業、保土ヶ谷谷太三丁目地区土地活用事業。			・豊田区総合体育館、オパールプラザ(手県津波町)、新田北内町市営住宅、通学事業(秋田県秋田市)。	・手県津波町、新田北内町市営住宅、通学事業(秋田県秋田市)。	・大田区総合体育館、アオーレ長岡。

横浜市民間資金等活用事業審査委員会を発足。諮問を実施し民間力活用を前提とした運営実施に向けて専門家の知見を仰ぐ。

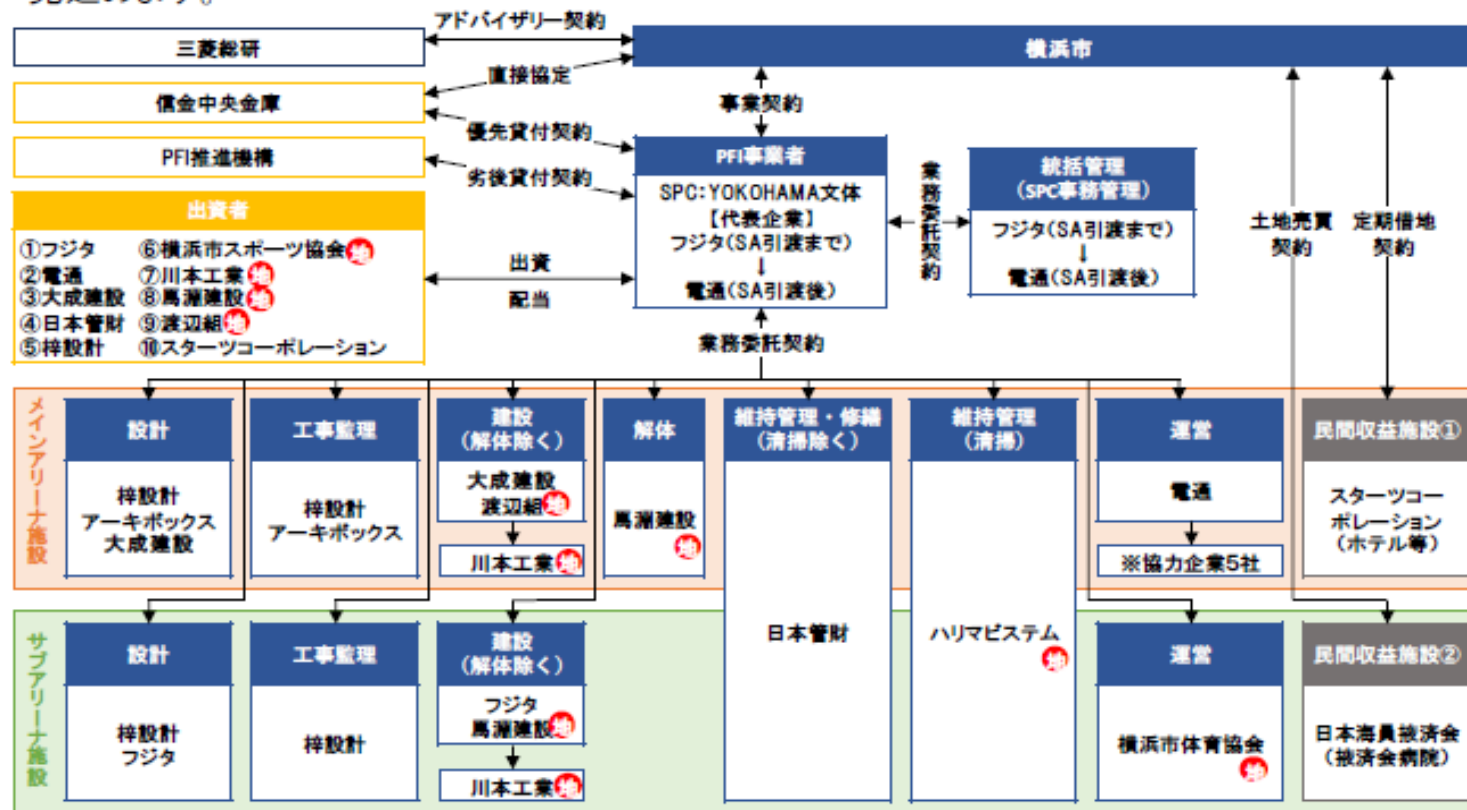
■ 審査委員会に対して、「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」に基づく特定事業に関する調査審議を実施しました。

- 調査審議を実施した結果、委員会より下記の通り答申をいただきました。
【修正意見】
 - 運営収入の取扱いなど、**PFI**事業と民間収益事業との区分が分かりやすいように記載すること。
 - 構成員以外の出資者がいる場合には、提案時において、市が株主構成を把握できるようにすること。
 - 「施設の構成」については、通常の体育施設との先入観を持たれることなく、多様なアイデアが提案されるように、表現を工夫すること。
 - 関内駅周辺地区まちづくりのリーディングプロジェクトとして、**PFI**事業と民間収益事業との連携による相乗効果の発揮を含め、地域への波及効果のある提案を求めること。

民間活力が最大限見込める「PFI事業」で実施

PFI手法による事業スキーム

- PFI事業を採用することで、建設、維持管理、運営の各段階において民間の資金、経営能力、技術的能力を活用でき、市が直接実施するよりも、事業コストの削減、より質の高い公共サービスの提供が見込めます。



※協力企業5社: DeNA、横浜アリーナ、神奈川新聞、テレビ神奈川、横浜FM放送

施設運営開始前後で代表企業が建設企業から運営企業に入れ替わる「代表企業スイッチ方式」を採用

SPC代表企業スイッチング方式

- サブアリーナ引渡前は建設を担当する株式会社フジタ、サブアリーナ引渡後は運営を担当する株式会社電通が代表企業を担う「代表企業スイッチング方式」により、各フェイズを円滑かつ責任を持って事業を推進します。



※ MA:メインアリーナ、SA:サブアリーナ

図 8-3-1-5 統括管理業務体制の円滑なスイッチング



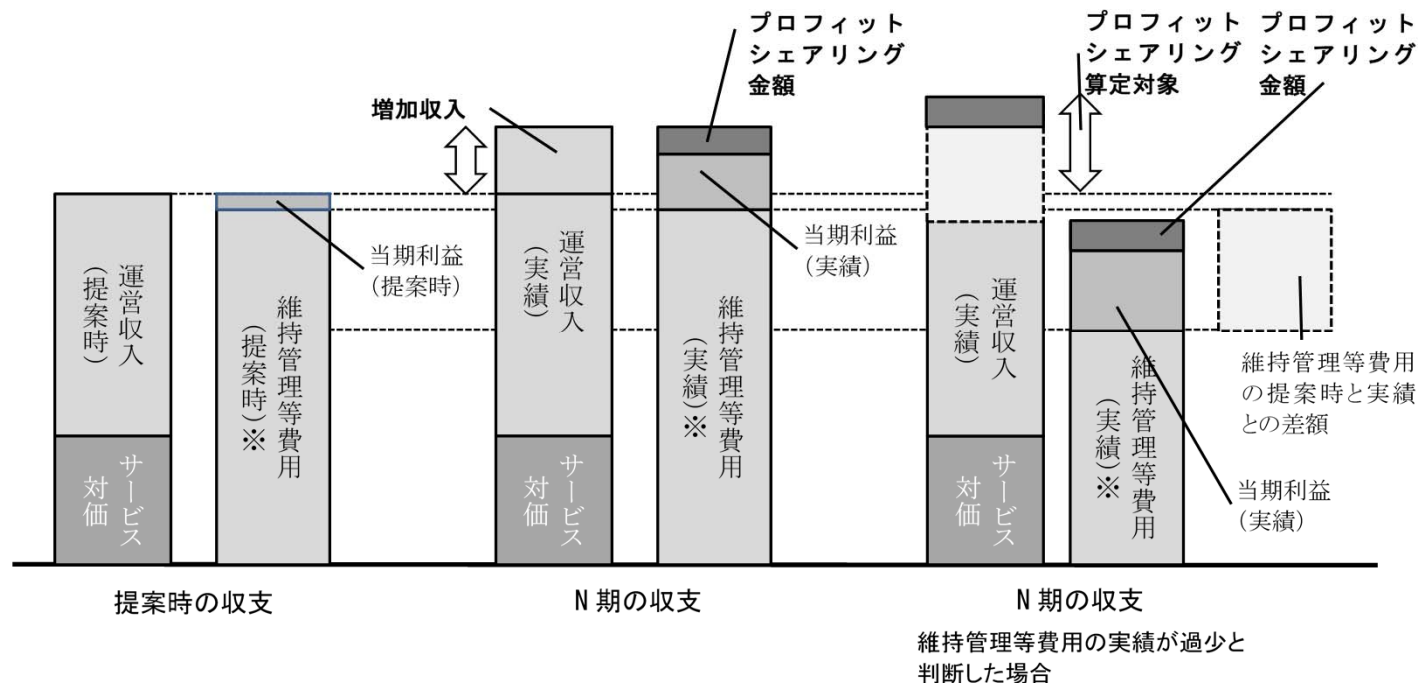
※ 変更の可能性がありますので、予めご了承ください。

図 8-3-1-6 SPC取締役・監査役の変更

「プロフィットシェアリング」により官民双方に収益還元するほか、民間収益施設を併せて整備するなど、民間事業者の創意工夫による収益向上が促される仕組みを導入

プロフィットシェアリング

- 本事業はコンセッション方式ではないものの、プロフィットシェアリング仕組みを導入しており、民間事業者は事業収益確保に対するモチベーションを維持できるとともに、公共側は収益確保に協力することで財政負担縮減に繋がるため、互いにとってwin-winの関係で事業を進めることができます。



■メインアリーナには民間収益施設として飲食・スポーツ関連店舗とホテルを併設

- 低層階には、街に開かれたテナント(レストラン等)と、スポーツ関連店舗(スポーツ用品店・スポーツBar 等)を誘致、4～7階にホテルを配置し、スポーツイベント目的の日本人のみならず、関内駅からのアクセス優位性を活かし、海外の方々の受け入れも積極的に行います。



■サブアリーナには民間収益施設として総合病院を併設

- 市民及びアリーナ利用者が安心して施設が利用できるよう、総合病院の機能(治療・健診・健康相談等)を複合し、本施設が横浜市におけるスポーツと健康福祉を担う中心的な役割を果たします。



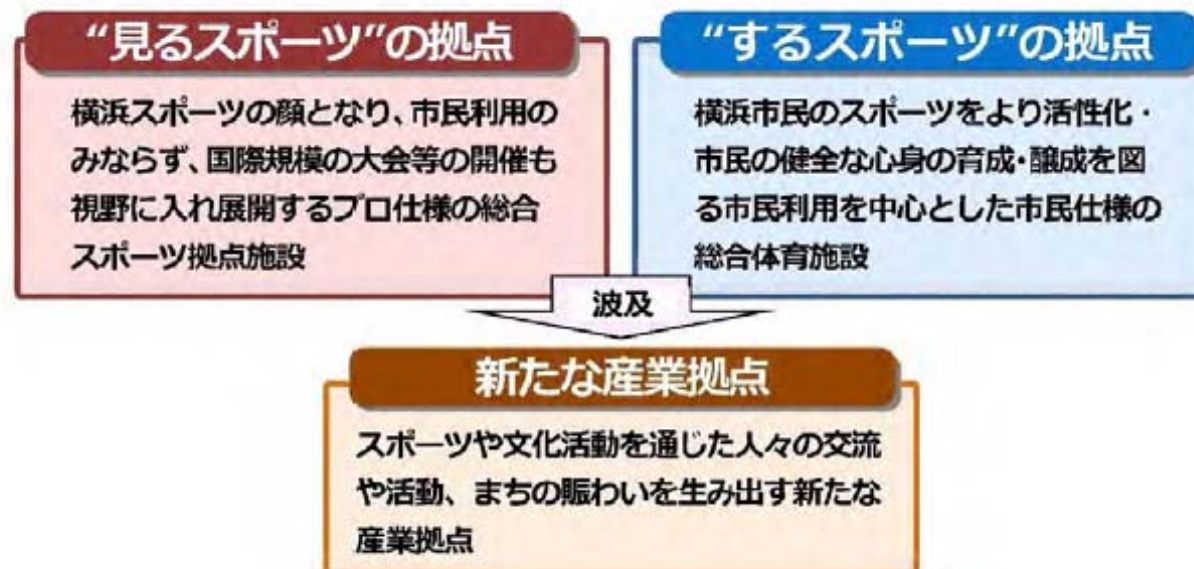
見るスポーツとするスポーツの拠点を形成し、健康産業やスポーツ産業を集積。

豊かな市民生活のための“するスポーツ”の拠点形成となるサブアリーナ

- サブアリーナは、市民スポーツの活性化およびスポーツを通じた市民の健全な心身の育成・醸成を図るために“するスポーツ”の拠点形成を目指します。

スポーツと健康等が融合したスポーツ関連産業集積拠点等の形成

- “見るスポーツ”と“するスポーツ”の拠点と合わせて、スポーツや健康産業に関する施設等を整備し、関外地区一帯のエリアにおいてスポーツ関連産業集積拠点等の形成を目指します。



「みる」アリーナを中心とした、にぎわいを生む交流空間で エンターテインメントの聖地へ

- 求心力と発信力を兼ね備えた施設構成とホスピタリティの高い空間、劇場型のアリーナ形状と最新鋭のインフラ設備により、コンサートやイベントの多彩な興行に対応した多機能型集客拠点を実現します

01. 交流と集客を生む「シンボリックアリーナ」

- ・ 賑わいを生みまちに発信する集客交流拠点を創出します。
- ・ 現横浜文化体育館の歴史あるイベントを継承できる機能を備えます。

02. 多彩な興奮と感動を生む「ハイパフォーマンスアリーナ」

- ・ 「みる」「魅せる」ことにも特化した高機能なアリーナを実現します。
- ・ 多彩なシート構成やプレミアムフロアなどホスピタリティの高い計画とします。

03. 多様な興行に特化した最先端の「エンターテインメントアリーナ」

- ・ イベントに適した扇型のアリーナ形状により多様な興行を実現します。
- ・ 大型映像装置など興業利用での多様な要望に応えられる計画とします。

04. ニーズに応え、多様な活用が可能な「フレキシブルアリーナ」

- ・ 多彩な活用に対応するフレキシビリティの高い計画とします。
- ・ 搬出入やイベント設営に配慮し、多彩なイベントを誘致可能します。



メインアリーナ(仮称)計画方針

基本方針

横浜、文化体育館の歴史を継承し、多様な感動を生む、
「市民」と「文化」をつなぐ横浜ユナイテッドアリーナを実現する4つの方針

01. まちづくりの象徴として、交流と集客を生む「シンボリックアリーナ」
02. 観客に多彩な興奮と感動を生む「ハイパフォーマンスアリーナ」
03. 多様な興業利用に特化した最先端の「エンターテインメントアリーナ」
04. 多様なニーズに応え、多様な活用が可能な「フレキシブルアリーナ」



01

まちづくりの象徴として、交流と集客を生む 「シンボリックアリーナ」

横浜文化体育館の歴史を継承し、求心力と集客力を兼ね備えたまちづくりの象徴として、交流と集客を生むシンボリックアリーナを実現

- 観客とステージ空間の一体感を生む「劇場型アリーナ」
 - ・全ての観客がステージ方向を向いた、日本初の劇場型アリーナを実現することで、観客と競技者の一体感を生み、日本中から人々が集まる集客力のあるアリーナを実現。
- 人々を引き込み、まちづくり象徴となる外観デザイン
 - ・開内駅からのアプローチは、エントランスに向かって人々を引き込む外観デザインとし、集客、交流の核として、まちづくりのシンボルとなる施設を実現
- 地域に開き、賑わいと交流の象徴となる広場
 - ・現横浜文化体育館の心地よい広場空間の賑わいを継承する市民交流の大きな広場を計画し、まちに賑わいを発信



02

観客に多彩な興奮と感動を生む 「ハイパフォーマンスアリーナ」

「みるスポーツ」に特化した「魅せる」アリーナ空間とホスピタリティの高い観戦空間により、観客に多彩な興奮と感動を生む「ハイパフォーマンスアリーナ」を実現

- 競技者のパフォーマンスを最大限引き出すアリーナ
 - ・国際、国内の大規模大会に対応し、プロスポーツの国内スポーツリーグの開催が可能なアリーナ施設
- 「みる」スポーツ施設に特化した「魅せる」アリーナ
 - ・一体感を生む観覧席計画や、視認性を確保するサイトライン計画、「大型ワイドビジョン」を採用し、「魅せる」アリーナを実現する全く新しいイベント空間を演出
- 新たなスポーツ観戦を提供するプレミアムフロア
 - ・プレミアムラウンジを併設し、BOXシートやカウンタ席、テーブル付きシートを設け、多彩な観戦環境に対応し、スポーツ観戦の新たな価値観を提供するホスピタリティの高い計画



03

多様な興業利用に特化した最先端の 「エンターテインメントアリーナ」

「みるイベント」に特化した劇場型のアリーナ形状により、コンサートや各種イベントなどの多彩なイベントに対応し、「エンターテインメントアリーナ」を実現します

- 高水準のインフラ設備を有する劇場型イベントアリーナ
 - ・スポーツ利用、音楽利用の双方に適したバランスの良い音環境と光ネットワークインフラにより、多彩な演出が可能な計画
- 多様なイベント運営を可能とする機能的なバックヤード
 - ・明快なゾーニング、楽屋利用可能な更衣室・控室、天井仮設フック(80か所)の設置、11t車の搬入が可能なアリーナ床面などにより、効率的な会場設営が可能な計画
- イベントのない日でも多彩な活用が可能な諸室計画
 - ・試合やイベントのない日でも、BOXシート、プレミアムラウンジは、スポーツを通じた企業間交流の場や地域クラブの交流拠点として活用可能な計画



04

多様なニーズに応え、多様な活用が可能な 「フレキシブルアリーナ」

多様なニーズに応える施設構造により、多様な活用が可能な「フレキシブルアリーナ」を実現します

- フレキシブルな利用が可能な「体育室」
 - ・コンサートの等のイベント時の物販スペースや展示イベント時のセミナー利用も可能とするほか、カフェやレセプション、パーティーなど、多目的に活用可能な計画
- 汎用性のある駐車場エリア
 - ・イベント時のバックヤードとしても活用可能なピロティ形式の駐車場計画
- イベントニーズに応える「トイレ」の計画
 - ・待ち行列がコンコースにはみ出ないよう配慮したワンウェイ動線を基本とし、男女比変動に対応した利便性の高い計画



メインアリーナ(仮称)建築概要

敷地面積:約10,000m²

建築面積:約 7,400m²

延床面積:約15,600m²

階 数:地上3階

建物高さ:約21m

構 造:RC造一部S造

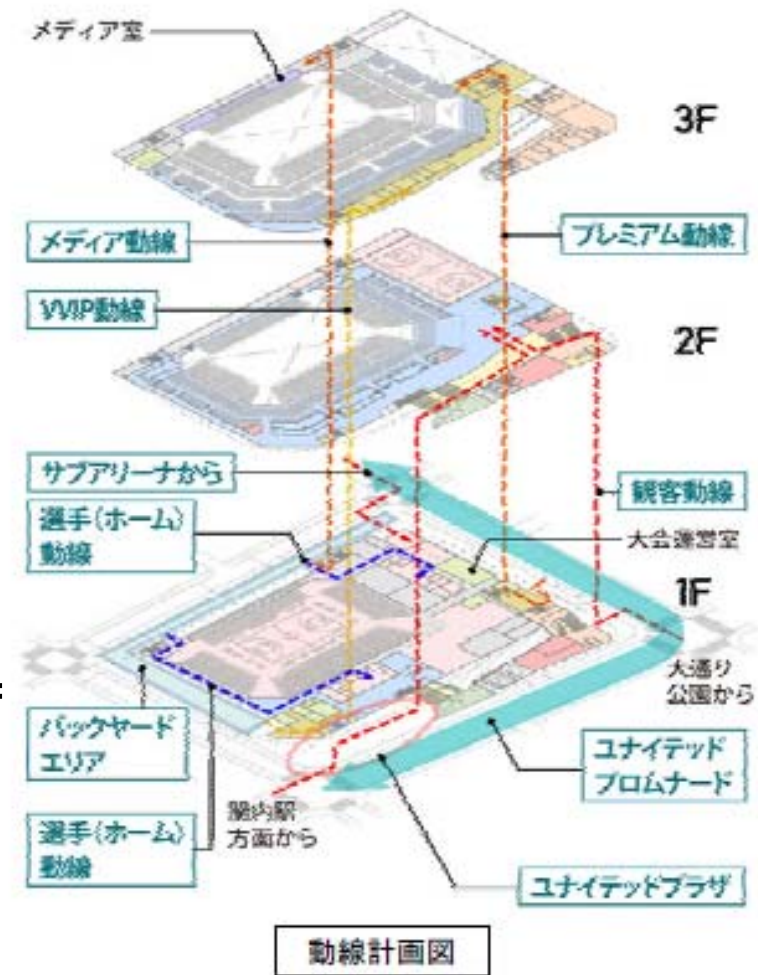
諸 室:■アリーナ

面 積 約2,400m²

観客席 約5,000席

■体育室

■更衣室 等



「する・支える」アリーナを中心と拠点とした、 市民交流空間で、スポーツコミュニティの聖地へ

『する・支える』アリーナを拠点とした、市民交流空間で、スポーツコミュニティの聖地へ

- 市民の幅広い利用形態に応えるアリーナ空間と格式ある意匠、利用者ニーズに柔軟に対応する諸室計画により市民武道、市民スポーツの活動拠点を実現します

01. 市民の日常的な「する」を「支える」武道館

- ・ 上下階の連携利用により「する」武道、スポーツ施設を実現します。
- ・ 効率的な動線計画により、文化活動を「支える」武道館を実現します。

02. 横浜の市民武道の聖地となる武道館

- ・ 和の趣を感じる、武道の伝統と精神性を持った建築計画とします。
- ・ 市民交流を促す施設計画により横浜市民武道の聖地を実現します。

03. 市民スポーツ活動拠点となる武道館

- ・ 多彩なコートレイアウトに対応した計画で市民活動拠点を形成します。
- ・ 移動可動席の利用により稼働率の高い施設づくりを行います。

04. 横浜文体の精神性を継承する武道館

- ・ 健康増進施設として親しまれてきた横浜文化体育館を継承します。
- ・ 現横浜文化体育館のイベントを継承できる施設として整備します。



横浜武道館 計画方針

武道の精神性を纏った建築空間と市民に親しまれる施設計画により、市民と地域、文化をつなぐ横浜武道館を実現する4つの方針

01. 市民の日常的な「する」を「支える」武道館
02. 横浜の市民武道の聖地となる武道館
03. 市民スポーツ活動拠点となる武道館
04. 横浜文体の精神性を継承する武道館



01

市民の日常的な「する」を「支える」武道館

日常的な市民利用から大規模なスポーツ大会利用まで幅広い利用に対応する施設計画により市民の「する」を支える武道館を実現

- 大規模な武道、スポーツ大会に対応する施設計画
- ・競技空間を更衣室等のバックヤードが囲む機能的なゾーニングで、大規模な国内大会（国体基準）においても円滑な運営が可能な計画
- 円滑な施設運営が可能な動線計画
- ・武道場とアリーナの動線を分離し、同時利用の際にも運営、管理しやすい計画
- 多様な使い方を可能とする上下階の連携利用
- ・武道場と多目的室、アリーナは、市民利用とスポーツ大会等の別々の催しを同時に実施可能であり、大勢の市民が利用できる稼働率の高い施設を実現する計画



02

横浜の市民武道の聖地となる武道館

武道の精神性を反映した格式ある建屋意匠と市街に開かれた交流空間としての施設づくりで、横浜市民武道の聖地を創出

- 来館者を迎える「外路地」と「内路地」
- ・軒下の木格子や道路境界に設ける縁側、入口へと誘う日本庭園、路盤の玉砂利などの日本の伝統美を持った意匠を随所に施し、武道館のアプローチとして相応しい空間を創出
- 交流空間としてのエントランスホール
- ・エントランスホールは、武道場と多目的室に隣接させることで人々の多様な交流を促す交流空間として計画
- 和の趣を追求し、市民武道の拠点となる武道場
- ・武道場は、2室分割時の間仕切りを防音に配慮した移動間仕切り壁とすることにより、2室で異なる武道を実施する際にも安全で円滑な利用が可能な計画



03

市民スポーツ活動拠点となる武道館

多様な使い方ができるアリーナ空間により多くの市民が親しまれる市民武道、市民スポーツの活動拠点となる武道館を実現

- 大勢の市民が利用できるアリーナ
- ・アリーナは、多面利用を想定した3面分割防球ネットの配置計画により、異種競技の同時利用が可能な計画
- 可動席により多様なコートバリエーション
- ・可動席を積極的に活用した計画により、スペースを余すことなく利用できる稼働率の高い施設とし、多様なコートレイアウトにも柔軟に対応できる計画
- 利便性の高い選手控室・更衣室
- ・アリーナの選手エリアは、プロスポーツ選手の利用も想定したロッカールームの設定と、選手控室には監督室も隣接した利便性の高い計画



04

横浜文体の精神性を継承する武道館

だれもが使いやすい利用ニーズに柔軟に対応する館室計画によりスポーツと文化活動の楽しみと喜びを市街に伝えてきた横浜文化体育館の精神性を継承する武道館を実現

- だれもが使いやすいユニバーサルデザイン
- ・「授乳室」や「だれでも更衣室」等の利用者諸室の計画的な配置、わかりやすいサイン計画によりユニバーサルデザインに配慮した施設計画
- フレキシブルに使える多目的室
- ・移動間仕切り壁により3室に分割利用でき、スタジオ利用や教室利用に柔軟に対応します。（フィットネススタジオ、ダンススタジオ、スポーツ教室、会議室等）
- 市民に親しまれる横浜文体の興行や大会を継承
- ・アリーナの移動式可動席は、様々な興行利用時の会場レイアウトに柔軟に対応ができ、床や天井面についても多様な興行や大会を可能とする設えを計画



横浜武道館 建築概要

敷地面積: 約5,700m²

建築面積: 約5,000m²

延床面積: 約15,000m²

階数: 地上5階

建物高さ: 約29m

構造: RC造一部S造

諸室: ■アリーナ

面積 約2,600m²

観客席 約3,000席

■武道場

面積 約860m²

観客席 約500席

■多目的室

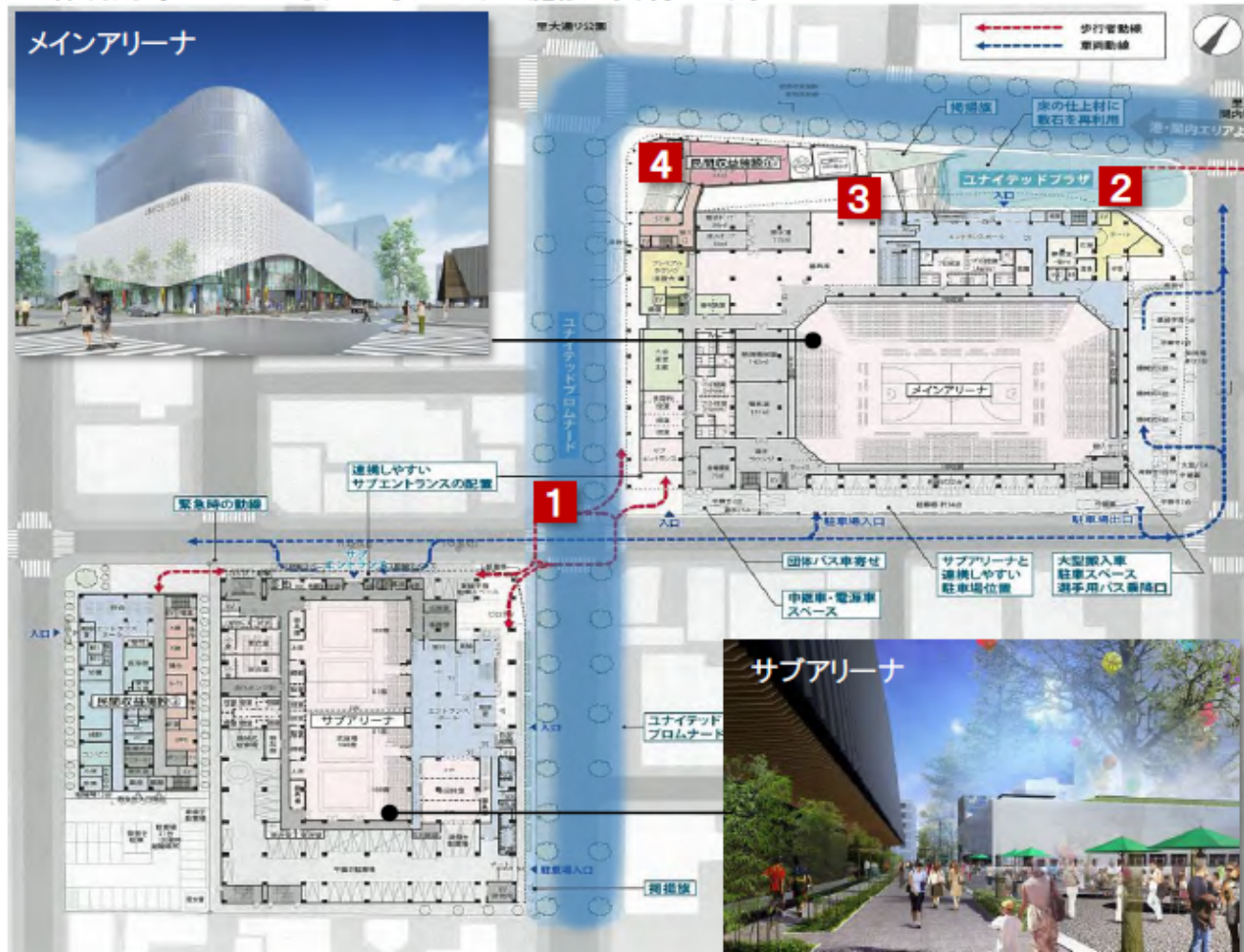
■更衣室 等



広場・大階段・飲食等(民間収益施設)を駅側に配置することで来街者を誘引し、さらにプロムナードが2つのアリーナを一体化。

来街者を誘引し、さらに回遊させる4つの計画上の工夫

1 プロムナード：歩車分離の徹底とユナイテッドプロムナードを軸とした動線計画により2つの敷地の一体利用時においても安全で使いやすい施設を実現します。



2 広場



- 横浜の文化と観光の拠点である赤レンガ倉庫や大さん橋が並ぶ港エリアから関内エリアを通り、本計画地へとシームレスにつながる通りに面して「広場」を整備し、来街者を受け入れます。

3 大階段



- メインアリーナの印象的な大階段は、モニュメント等を設置し、横浜のスポーツ・文化芸術の「聖地」として設えます。

4 民間収益施設



配置図・動線パターン

- 大階段を介した民間収益施設の配置とし、メインアリーナ観客席・VIPラウンジへスムーズに往来を可能とし、施設全体の利用を促進します。

関内・関外地区の日常・イベントの連携を促し新たなまちの 回遊空間を創出。

- みなと大通りを軸とした関内・関外地区のつながりと大通り公園・伊勢崎モールとつながりを新たな集客機能が賑わいとまち歩きの回遊性を演出します。

ユナイテッドスクエアと「文化・人・まち」をつなぐ8つの方策

ハードの提案:

- | | | |
|---|----------|--|
|  | 方策
01 | 【人と文化をつなぐ】
「集客」と「発信」を担う
エンターテインメント拠点 |
|  | 方策
02 | 【人と文化をつなぐ】
「する」「支える」
市民スポーツ拠点 |
|  | 方策
03 | 【人とまちをつなぐ】
2つのアリーナの連携を生み
まちとつなぐ回遊動線 |
|  | 方策
04 | 【人と文化をつなぐ】
宿泊・飲食
サービスの提供 |
|  | 方策
05 | 【人とまちをつなぐ】
医療サービスの提供 |

ソフトの提案:

- | | | |
|---|----------|---------------------------------------|
|  | 方策
06 | 【人と人をつなぐ】
地域クラブを主体
とした地域交流の場の創出 |
|  | 方策
07 | 【人と人をつなぐ】
地元メディアとの連携
した情報発信活動 |
|  | 方策
08 | 【人とまちをつなぐ】
既存集客拠点との連携
したイベント誘致 |



横浜武道館 〈令和2年7月開業〉



メインアリーナ(仮称) 〈令和6年4月開業予定〉



※ 現在設計作業中であり、
内容の変更等があります。